特別支援学級　国語科学習指導案

１　単元名　文作りにちょうせんしよう

２　指導観

○　本学級には、2年生１名（A児）、3年生１名（B児）、4年生１名（C児）の計３名が在籍している。それぞれの状況に応じて交流の時間が違うので、交流学級の時間割をもとに、○○○○学級での時間割を設定している。国語の時間は３人とも○○○○学級で学習をしており、検定本を中心に進めている。

子どもたちは全員、言葉での会話ができる。家での出来事、友達のことなど、教師や友達に伝えたいことがいっぱいあって、4年生を中心に話が続く。しかし、時々、主語や述語、事柄の順序を確かめるために、逆に質問をして話の内容を整理しなければならないときがある。

子どもたちは、読み聞かせが好きである。それぞれの学年の物語文を教師が読んでいると、いつの間にか他学年の子どもたちも耳を傾けて聞いていることがある。そして心に残ったことを、短い言葉ではあるが、話してくれる。

読むことについては、まだたどり読みの段階で内容を理解するのに時間がかかる子ども、すらすらと読めるが、段落相互の関係を考えたりすることは難しい子どもと個人差が大きい。

書くことについては、主語、述語、助詞の使い方、誤字、脱字など、それぞれに課題がある。そして何よりも、文作りは難しい、出来ない、めんどうくさいという苦手意識を持っていることが大きな課題である。

個別の実態は次のとおりである。

	読　む	書　く	取り組む姿
A児2年	２年生の教科書の挿絵や題名に興味を示すと、自主的に読み始める。集中していると、質問に対する答えを文の中から見つけることができる。	ひらがな、カタカナ、習った漢字、促音、拗音などほぼ正確に書ける。毎日の日記では、３語文を１文のみ書いて終わる。文を書くことに、あまり興味を示さない。	教材に興味を持つと、意慾的に取り組む。同じ教材を繰り返し時間をかけて取り組むのは苦手である。
B児3年	音読には特に苦手意識があり、漢字でつまずきながら、すらすらと読むことができない。文章を繰り返し読んでいくと、内容を少しずつ理解できるようになる。	日記では、カタカナや漢字を使わず、ひらがなだけの文になっていることが多い。したことを順番に書いていくが、誤字や脱字が多い。	国語は難しいという気持ちはまだ強いが、間違いもきちんとやり直しをして、根気強く取り組むことができる。
C児4年	４年生の教科書をすらすらと読むことができる。長文になると苦手意識が先に立ち、段落相互の関係を捉えることが難しくなってくる。段落ごとの質問には、文中から答えを見つけようと頑張る。	習った漢字はほとんど読んで書くことができ、文の中でも使える。日記では、１文が長くなり、主語と述語がはっきりしなくなったり、助詞の使い方が間違ったりしていることがある。	音読や漢字の練習などよく努力している。何事にも意慾的だが、間違いに気付くと、意欲が半減してしまい、なかなか進まなくなる。

○　本単元は１学期より、個別学習ではなく３人で一緒に取り組んでいるものである。学習内容として、３人でできるゲーム的な要素を取り入れたり、絵カードを使ったりすることで、文作りへの理解を高め、文作りは楽しいという思いを少しでも持たせることができるのではないかと考えている。

「伝言」ゲームでは、３～５語文を読んだり、覚えて書いたりすることで、正しい文の形が入りやすくなるのではないかと考える。「？ボックス」ゲームでは、くじのように引いて出てきた紙に書かれている問題を読んで、その答えを発表していくものである。その問題の出し方によっては、主語述語を意識したものになるのではないかと思う。さらに、「だれは、どこで、なにをした」ゲームでは、主語に対する述語が捉えやすく、楽しみながら理解を促していくことができるのではないだろうか。

また、見たことやしたこと、言ったことなどを絵カードをもとに整理していくことで、難しいと思っていた文に対する抵抗が少なくなり、今後の作文構成の指導にもつながっていくのではないかと考えている。

・主語、述語、修飾語を意識するために ⇨ 「伝言」ゲーム

「？ボックス」ゲーム

「だれは、どこで、なにをした」ゲーム

など

・作文の内容について考えるために ⇨ 見たこと・聞いたこと・言ったこと・したこと・思ったこと

五感（　視覚　・聴覚　・臭覚　・味覚　・触覚　）

○　本単元の指導にあたっては、楽しさを味わいながら、意欲的に文作りに取り組み、少しでも文作りへの苦手意識が少なくなるようにしたい。また、月に１～２回程度、１年間継続して取り組むことで、この学習の流れがわかり、見通しを持って安心して参加できるようにしたい。

「伝言」ゲームでは、３～５語文を教師が一人の子どもに提示し、その文を覚えて次の人に伝えていくというものである。出来るだけ成功感を味わわせるために、すっきりとして分かりやすく、子どもたちが興味を引きやすい内容にしたい。

「？（はてな）ボック」ゲームでは、？ボックスに入っている問題文を、主語述語で答えやすい内容にしたり、答え方の見本を提示することで、安心してゲームに参加できるようにしたい。

「だれは、どこで、なにをした」ゲームでは、主語や述語、修飾語が意識できるように色を変えたカードに書いて読むようにしたい。「なにをした」については、「ごはんをたべた」のように修飾語＋述語になるものもあるが、述語に直接つながる修飾語として、同じ色で表すことにした。

最後の文作りでは、見たこと、聞いたこと、言ったこと、したこと、思ったことについてそれぞれ文

を作っていく。本単元の文作りのもとになる活動は、基本的には、生活単元でのクッキングや集会など３人で一緒に体験できるものを考えているが、状況に応じで、学校行事やその他の活動も考えていきたい。いずれにしても、子どもたちが楽しめた思い出深い内容を第一に取り上げるようにしたい。なお、なかなか文が出てこない場合は、その活動を思い出すために、絵や写真などを提示して支援していきたい。

３　目標

〇友達と意慾的に文作りに取り組むことができる。

〇主語と述語の関係を意識しながら、文を完成させることができる。

　Ａ児･･･写真を手がかりに状況を思い出して、３語文を作ることができる。

　Ｂ児･･･主語と述語を確認しながら、大きな声で読んだり書いたりすることができる。

　Ｃ児･･･主語と述語、助詞の使い方を意識しながら、３～５語文を作ることができる。

〇「はじめ、なか、おわり」を意識して簡単な作文に挑戦することができる。

　Ａ児･･･「はじめ、なか、おわり」の順番に文を並べることができる。

　Ｂ児･･･「はじめ、なか、おわり」を意識して、５文程度書くことができる。

　Ｃ児･･･「はじめ、なか、おわり」に適した文を選び、５～８文程度続けて書くことができる。

４　学習計画（全１６時間）

	学　習　活　動　と　内　容		配時
１学期	〇ゲーム ・「伝言」ゲーム ・「だれはどこで何をした」ゲーム	〇文作りをする。 　文の種類について	②
２学期	〇ゲーム ・「伝言」ゲーム ・「？ボックス」ゲーム ・「だれはどこで何をどうした」ゲーム （何をした、何を見た、何を聞いた、何を言った、何をどう思った）	〇文作りをする。 ・したこと　② ・見たこと　① ・聞いたこと　① ・言ったこと　② ・思ったこと　②	⑧ （本時2/8）
３学期	〇ゲーム ・「伝言」ゲーム ・「文の家づくり」ゲーム	〇文作りをする。 ・活動を思い出して 〇文をみんなで組み立てる。 〇文を一人で組み立てる。	② ② ②

５　本時

平成２４年　　月　　日（　）

６　本時の目標

○「したこと」の文作りに、友達と楽しく取り組むことができる。

○主語に対する述語を確認しながら、文を作ることができる。

Ａ児･･･写真を手がかりにして、３語文を自主的に２～３文程度作ることができる。

Ｂ児･･･出来上がった文を、主語と述語がわかるように、はきはきと読むことができる。

Ｃ児･･･主語と述語、助詞の使い方を確認しながら、３～５語文を作ることができる。

７　本時指導の考え方

本時は、「したこと」の文作りの２回目である。今回も、クッキングの活動を通して、だれがどんなことをしたのかを中心に文作りを進めていく。

導入では、前時に作った文を提示し、今回挑戦する文も「したこと」であることを確認させる。そして、一人ひとりのめあてを読みながら、文作りへの意識を高めていきたい。

展開の段階ではまず、文作りを楽しませるために、２つのゲームを準備する。１つは「？ボックス」ゲームである。この「？ボックス」は１学期より生活単元学習でも登場しているもので、いくつかの質問の中からランダムに選ぶ楽しみを味わわせたくて始めたものである。さらに「だれは、どうした」という答えを導くことができる質問を準備することで、主語と述語を無理なく発言することができるのではないかと考えている。

「だれは、どこで、なにをした」ゲームでは、それぞれに色分けした箱の中から、言葉を書いたカードを１枚ずつ取って読んでいくことで、主語と述語の組み合わせの面白さを感じ取りながら、よりはっきりと、主語と述語を意識していけるのではないかと思われる。

その２つのゲームを楽しんだあと、いよいよ文作りに入る。今回は、生活単元学習で行ったクッキング（「フルーツポンチを作ろう」）をもとに、「したこと」の文作りをする。活動を思い出すために、その時の写真を提示しながら、みんなで話す時間を取りたい。そして、文作りに当たっては、誰が何をしたという文の形を再度確認して、書く活動に入っていきたい。書くことに積極的ではないＡ児については、Ａ児の好きなシールを準備したい。全員が書き終わったら、読み返しをして、主語と述語の関係や、誤字、脱字がないかどうかを確認させ、自信を持って発表できるようにしたい。

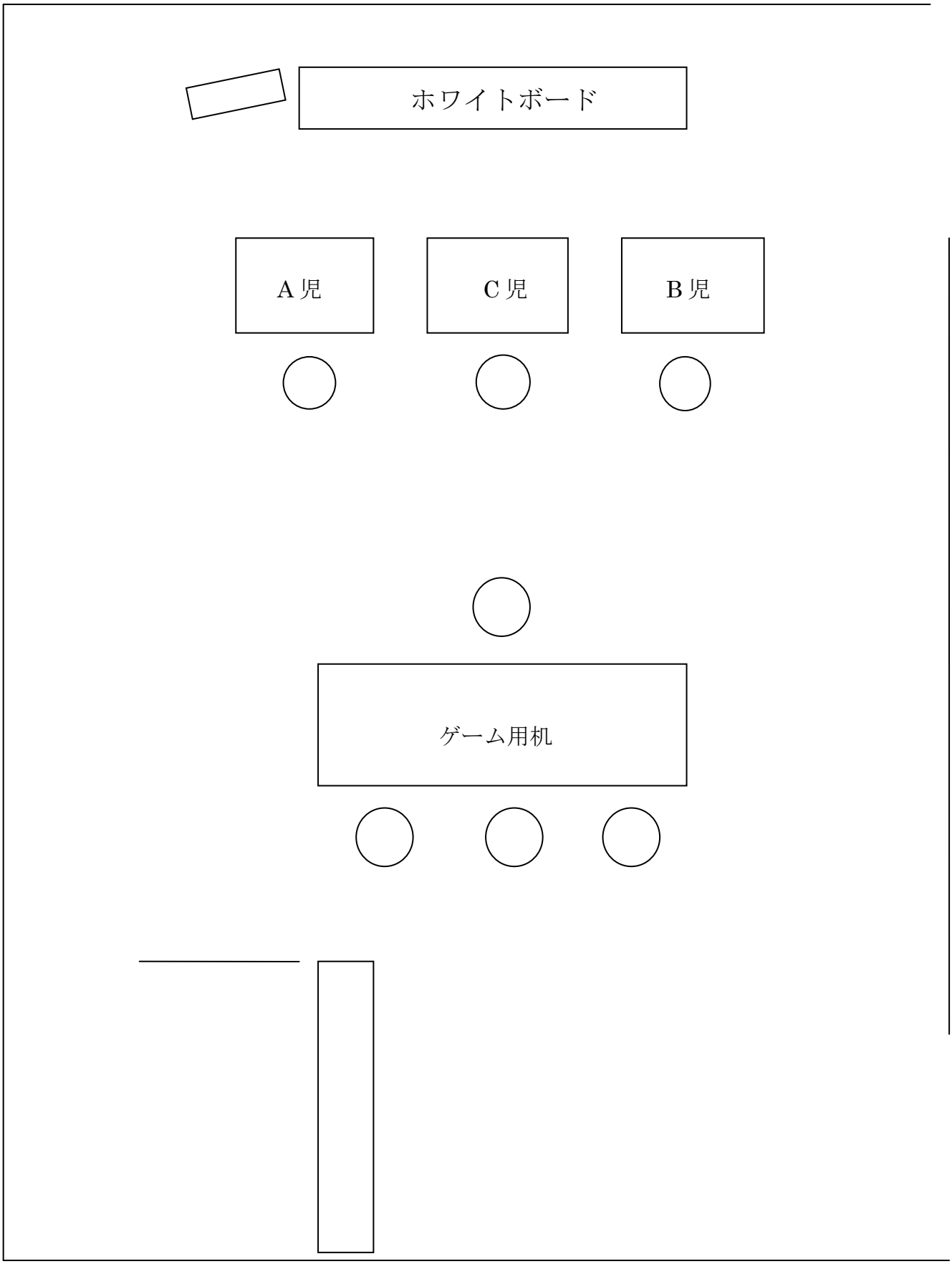
最後に「今日の学習」を振り返り、それぞれのめあてが達成できたかどうかを一人ずつ聞き、みんなで拍手を送りたい。みんなで楽しく文作りができたと言える一時間にしたい。

８　準備

・スケジュールボード　・？ボックスと問題文　・「だれは」（ピンク）「どこで」（黄緑色）「なにをした」（水色）を書いたカード　・文作りプリント　・クッキングの写真　・例文

9　展開

学　習　活　動	支　援
1　前時の学習を想起し、本時の学習のめあてをつかむ。 （1）　前時に作った文を読む。 （2）　本時のめあてをつかむ。 「だれは、なにをしました。」の文作りに、ちょうせんしよう。 （3）　個別のめあてを確かめる。 A児･･･文を２つ作る。 B児･･･出来た文を大きな声で読む。 C児･･･主語と述語を確かめて読む。 （4）「したこと」の文を確かめる。	・学習の流れをミニホワイトボードで確認して、見通しを持たせる。 ・挑戦する文が分かり易いように、「したこと」の絵のマークと前時に作った文を提示する。 ・めあてが意識できるように、一人一人読みながら確認していく。 ・だれは　何をしましたのカードを提示する。
2　文作りをする。 （1）　「？ボックス」ゲームをする。 ①　それぞれの学年の「？ボックス」から問題用紙を１枚選ぶ。 ②　問題文を読む。 ③　問題文に答える。 （2）「だれはどこで何をした」ゲームをする。 ①「だれは」･･･ピンクの紙に書いている文の中から選ぶ。 ②「どこで」･･･黄緑色の紙に書いている文の中からを選ぶ。 ④　「何をした」･･･水色の紙に書いている文の中からを選ぶ。 ⑤　選んだ言葉を順番に続けて読む。 （3）「したこと」の　文作りをする。 ①　クッキングの活動を思い出して話し合う。 ②　「したこと」を書く。 ③　「したこと」を発表する。 ④　主語と述語をみんなで確認する。	・主語と述語で答えやすいような問題文を学年ごとに考えておく。 ・友だちの発表をしっかり聞いている子どもを褒め、他の児童の意識を高める。 ・主語、述語、修飾語が意識できるように、それぞれのカードは色を変えておく。 ・友だちに聞こえるように、最後まではきはきと言うよう、声をかける。 ・個別のめあてを再確認する。 ・活動を思い出すことができるように、その時の写真を提示する。 ・なかなか文が出てこないときは、ヒントを出しながら、一緒に考えていく。
3　本時を振り返り、次時について知る。 （1）　一人ひとりのめあてについてふりかえる。 次は「見たこと」を文にすることを知る。	・個別のめあてを振り返り、一人ひとりが頑張ったことを認め合えるようにする。


ホワイトボード
A 児
C 児
B 児
ゲーム用机